

# 肥前浜宿の歴史的町並みの保存活用に関わる建築設計とICT活用型まちづくり研究

## ① 伝統的建造物の保存活用

階高の高い茅葺中2階を有する有明海削節漁家の復原に関する研究  
—佐賀県鹿島市の旧荒木家住宅を対象に—

17577020 森永一男

### 1. 研究の目的と方法

佐賀県鹿島市の浜庄津町浜金屋町重要伝統的建造物群保存地区（以下、庄金地区）は浜川の河口に面した在郷町で、後に長崎街道の宿町としても栄え、今日でも有明海沿岸有数の漁業集落でもある。

本研究では、庄金地区の浜川沿い（字名・南舟津）に建つ旧荒木家住宅の復元的考察を行い、その特質を明らかにすることを目的とする。

### 2. 旧荒木家の歴史と建物の現状

旧荒木家は明治末期頃より八田網漁を行っていた。その後、削節を共同で製造したが、前所有者荒木氏の父親（峰松興左衛門氏）が体調を崩してからは母親が薬の行商を行なった。兄が家を継ぐも平成19年に逝去し空家となり前所有者が受継いだ。平成27年に地元酒造会社が入居し社宅として利用され、現在ゲストハウスとして修理工事を予定している。

家屋台帳より昭和15年に大幅に改築されたことが明らかである。すなわち、浴室と台所を増築し、北側下屋部分を改築して囲炉裏間や便所等を設けている。また、座敷北側に押入を追加し縁側西側の入隅部分も増築したことが確認できる（図1.1階）。東側下屋部分の瓦葺は解体され、コンクリートスラブに変更されている（図1.2階）。

### 3. 旧荒木家住宅の部材加工跡、風食等から見た復原

2018年7月に解体後調査を行ない痕跡図を作成した（図2）。建築年代は江戸末期であり、明治中期に改修されていると考えられる。1階北側板間の柱（図2.1階A）に小舞跡（図2-A<sub>1</sub>）が見られ、江戸末期は壁であったことは明らかである。さらに窓台は縦格子の痕跡が残っており、明治中期に土壁から無双窓に変更されたと推測される（図2-A<sub>2</sub>）。明治中期改修の特徴として、柱間装置の変更が挙げられる。囲炉裏間北側床下（図2.1階B）には敷居の痕跡があり、北側大戸は内部が障子戸で外部は片引板戸に変更された（図2-B）。また、土間東側の出入口（図2.1階C）は吊込跡や袖壁加工跡からみて建築当初は大戸であったと考えられる（図2-C）。



図1 解体前平面図

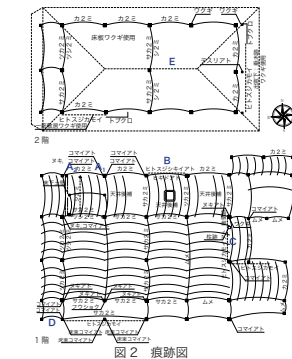


図2 痕跡図



図2-A<sub>1</sub> 北側柱小舞跡

図2-A<sub>2</sub> 無双窓跡

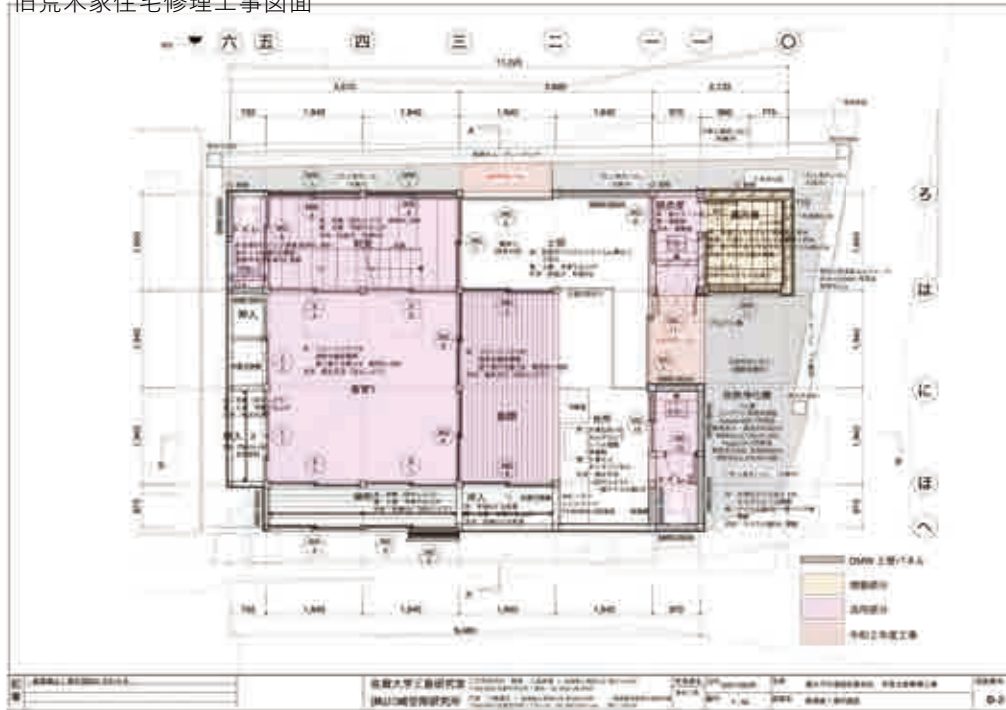


旧荒木家住宅工事前



旧荒木家住宅修理工事後

旧荒木家住宅修理工事図面



魚市場の現況と軸組模型